

なつやす 夏休み

待ちに待った夏休み。おじいちゃんやおばあちゃんの家など親せきの家に行く人もいるでしょう。

畳に、障子やふすま、たんすなどがそろった、むかしながらの古い家に行ったら、ぜひ、文様をさがしてください。

障子やふすまのことを「建具」といいますが、おもしろい幾何学文様が多く見られます。むかしの建具職人がていねいに作った文様は、古くなくてもきれいに残っています。

建具の文様

普通の障子は四角が並んだ形ですが、直線が並んだ文様が「縞文様」、縦横に交差したのは「格子文様」です。お寺などの障子には手のこんだ「麻の葉」や「菱形」などの複雑な文様があります。これを「組子細工」といい、小さく切った木を組み合わせて複雑な文様を作ります。畳べりや、欄間、ふすまにも文様が使われています。

麻の葉 あさのは
麻は成長が早いので、子どもが健康に育つようにと節いがかめられた文様です。麻の葉に似た形からこの名前がつけられました。



引き手

ふすまに手をかける「引き手」にもおもしろい形がありますよ。

「ひさご」はひょうたんのことです。

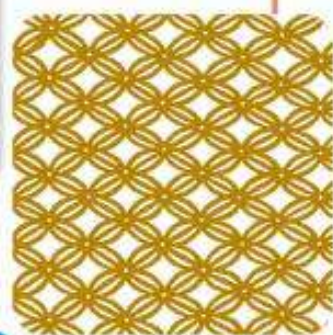
「月」は漢字の「月」を筆で書いたときの形です。



花入り菱格子 はないりひしごし
菱形の格子の中に花の文様を入れて親しみやすくしています。



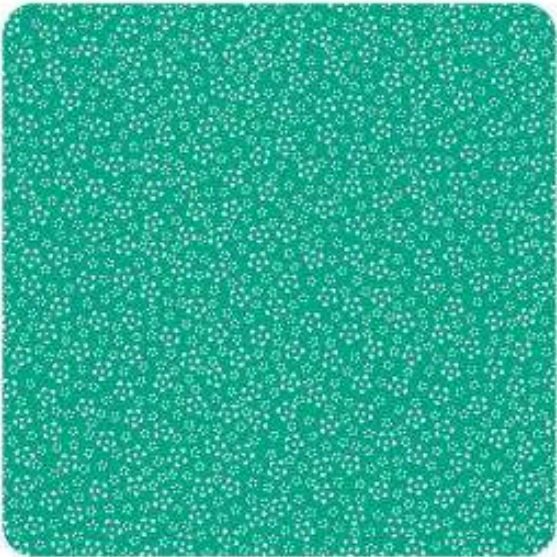
菱つなぎ ひつなぎ
菱形を複雑にした文様です。



紗綾形 さやがた
「花くずし」ともいいます。元は中国から伝わった、織物の文様です。

七宝 しちほう
西方に限りなくとどろく広がる文様なので、縁起がよいとされます。





小花 こばな
小さな花がちりばめられています。



福寿草 ふくじゅうそう
お正月のころに咲くので、おめでたいとされる花です。



藤棚 ふじだな
平安時代から親しまれている文様です。



桐 きり
桐は、平安時代は天皇の文様となっていました。



藤花円形文
ふじばえんけいもん
平安時代の貴族が使っていた文様がアレンジされています。



たんぽぽ
タンポポは綿毛が風に吹かれて飛び、種を運ぶことから、「字孫繁栄」の縁起のよい文様とされています。



たんぽぽ



上り藤 あがりふじ
フジの文様は、平安時代から、上品な文様としてあつかわれています。



牡丹 ぼたん
ボタンは花の王様といわれています。

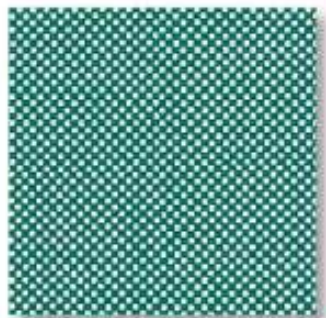


春の草花で遊んでみましょう。

役者文様③ 市松文様

市松文様は、江戸時代の中ごろに活躍した佐野川市松という歌舞伎役者が着て、流行しました。白と黒の正方形を交互に並べた文様です。大きな市松文様と、小さな市松文様とでは、感じがいふんちがいます。日本間のふすまにも使われています。お寺などの庭の敷石に使われている文様に似ているので、「石畳文様」ともいわれます。

四角の大きさや角度によってイメージが変わるため、使いやすい便利な文様です。



わがしづく 和菓子作り

和菓子作りの体験学習は楽しみですね。むかしはお菓子はちょっとぜいたくなものでした。ですから、お菓子の形にも愛情がこめられて、美しく作られています。日本のお菓子は季節を大切にしているので、桜やアサガオ、ツバキなど季節を代表する花などを型どっています。

季節の和菓子

春



花衣
春の香りが衣に包まれているようです。

花かご
かごの中にかわいらしい花が入っているようすをお菓子にしています。



金魚
金魚鱗のようにすきとおっていて、涼しそうです。

朝顔
夏を代表する花ですね。

紅葉
紅葉のように美しいお菓子です。



木守
カキの収穫のとき、最後のひとつは、「来年もたくさん採れますように」と残しておきます。残したひとつを「木守り」といいます。



秋

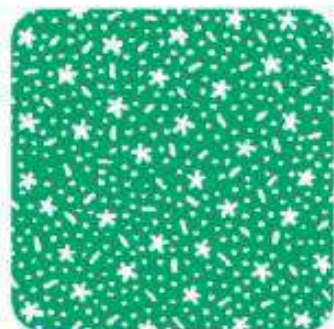


椿
冬を代表する花です。

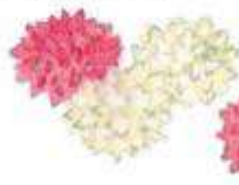
うさぎ
雪で作ったウサギを型どっています。

うさぎ
かわいらしいウサギの文様は江戸時代から見られるようになりました。

萩に楓
あられにかえて



金平糖 こんぺいとう
16世紀にポルトガルから伝わった砂糖菓子を文様にしました。



和菓子作り



萩に菊
あられにきくかえてカエデはカエルの手の形に似ていることからカエル手→カエデとなり、「カエル」から「遷る」「無事かえる」など縁起物の文様と考えられました。



菊
キクの花を型どった職人技の和菓子です。和菓子は「葉文字」という木を削った楊枝でいただくのが一般的です。

栞菊 むじなぐ
キクの花の文様です。ムジナ(アナグマの別名)の毛並みのように見えるので、この名前がつけられました。